



Oracle® Hyperion Reporting and Analysis

リリース 11.1.2.3.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

目的	2
このリリースでの新機能	2
インストール情報	5
サポートされているプラットフォーム	5
サポートされている言語	5
サポートされているこのリリースへのパス	5
このリリースで修正された問題	6
既知の問題	15
ドキュメントの更新事項	36
ドキュメントのフィードバック	39
アクセシビリティの考慮事項	40

目的

このドキュメントには、このリリースの Oracle Hyperion Reporting and Analysis 製品および Oracle Hyperion Financial Reporting に関する重要な最新情報が記載されています。Oracle Enterprise Performance Management System をインストールする前に、この Readme を熟読してください。

このリリースでの新機能

このリリースにおけるインストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関連する新機能は、Oracle Enterprise Performance Management System Readme のこのリリースの新機能に関する項を参照してください。

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 を使用していた場合、累積機能概要ツールを使用して、これらのリリース間で追加された新機能のリストを確認してください。このツールを使用すると、現在の製品、現在のリリース・バージョン、ターゲット実装のリリース・バージョンを特定できます。シングルクリックによって、現行リリースとターゲット・リリースの間に開発された製品機能の高レベルな説明のカスタマイズ済セットが迅速に生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

Apple モバイル・デバイスに対して認証されたドキュメント

リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、以前から使用可能であった MOBI ファイルおよび EPUB ファイルの 2 つのモバイル・フォーマットで使用可能になりました。すべての Apple モバイル・デバイス(iPad、iPhone および iPod Touch)に対して、EPUB ドキュメント・ファイルがサポートされています。EPUB ファイルは多くのモバイル・デバイスでサポートされていますが、Apple モバイル・デバイスでのみ認証されています。将来的には追加のデバイスも認証される予定です。

EPM Workspace

EPM Workspace から Oracle BI EE へのアクセス

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のコンテンツは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace から作成およびアクセスできます。このリリースでは、この 2 つの製品の間のインタフェースが変更され、拡張されています。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide の Oracle BI EE の使用に関する項を参照してください。

Financial Reporting

モバイル・サポート

Financial Reporting リリース 11.1.2.3 では、ユーザーは、次のモバイル・デバイスで、デバイスのデフォルト Web ブラウザを使用して Financial Reporting レポートにアクセスし、レポートを表示し、レポートと対話することができます:

- Apple iPhone および iPad
- Android フォンおよびタブレット

ユーザーはログイン情報を入力した後、リポジトリを参照し、レポートおよびブックを HTML フォーマットまたは PDF フォーマット起動始できます。ユーザーは次のことを実行できます。

- POV の変更
- プロンプトへの応答
- ページ・メンバーの変更
- 展開機能の使用
- 関連コンテンツの操作

ブックの機能強化

Financial Reporting ブックに次の機能が追加されました:

- 「PDF のブック全体」を選択した場合の、目次の前に表示される表紙の追加
- ブック HTML ページへの Word ドキュメントの埋込みまたは起動
- 開始ページ番号の指定

オーサリングの機能強化

Financial Reporting リリース 11.1.2.3 では、次の新しいオーサリング機能が備わっています:

- PDF 出力でメンバー・ラベルの後にドットを追加するための行プロパティ
- カスタム・テキスト色
- PDF 出力でのヘッダー・テキスト・ボックスの自動サイズ設定

注釈の監査

作成日や最終変更日などの注釈に関する情報は、一般的な監査およびコンプライアンス・レポートには不可欠です。Financial Reporting レポートに関連する注釈の注釈情報は、Financial Reporting サーバー上で AnnotationAudit.log ファイルに記録されます。詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide の注釈の監査に関する項、および Oracle Enterprise Performance Management

System Installation and Configuration Troubleshooting Guide の EPM System ログの使用に関する項を参照してください。

Financial Reporting Studio の複数のバージョン

Financial Reporting Studio リリース 11.1.2.3 以降、Financial Reporting Studio では同じクライアント・マシンでの複数のバージョンがサポートされています。この機能は、リリース 11.1.2.3 以前の Financial Reporting Studio リリースではサポートされていません。この機能の使用方法の詳細は、[36 ページの「ドキュメントの更新事項」](#)を参照してください。

Smart View 統合の向上

Financial Reporting と Oracle Hyperion Smart View for Office との統合には、次の機能が追加されました:

- すべての Financial Reporting フォーマット(Smart View Office テーブルに使用可能なフォント、枠線、網掛け、通貨記号、数値区切り文字など)
- Smart View Office テーブルは、Financial Reporting レポートの変更(新しい行と列、削除された行と列など)を受け入れます
- Oracle Hyperion Disclosure Management のフォーマット、パフォーマンスおよび柔軟性が向上し、Oracle Hyperion Disclosure Management ユーザーは、レポート列の時間メンバーに対する Financial Reporting 式動的メンバー選択および現在の POV を活用できます。

HTML プレビューでのレポートの外観

このリリースの Financial Reporting では、HTML プレビューでレポートが Workspace ページの中央に配置され、グレーのアウトラインが表示されて、PDF のレンダリングおよび配置により近くなっています。

Financial Reporting での Planning 意思決定パッケージのサポート

Oracle Business Intelligence Publisher では、意思決定パッケージ出力を表示するレポートを生成できます。Financial Reporting では、Oracle Business Intelligence Publisher から選択した意思決定パッケージ・レポートを URL としてブックに挿入できます。ブックを実行すると、出力には PDF フォーマットの意思決定パッケージが含まれます。

クエリー準備リンク表示の制御

このリリースでは、Financial Reporting の「プリファレンス」で「クエリー準備モード」を選択できるようになりました。HTML 出力でクエリー準備リンクを非表示にするには、ユーザーは「クエリー準備モード」を「使用不可」に設定します。

インストール情報

EPM System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme を参照してください。EPM System 製品をインストールする前に、この情報をよくお読みください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix にスプレッドシート形式で提供されています。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN)の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに記載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System 製品でサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」タブにスプレッドシート形式で提供されています。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース 11.1.2.3 へ
11.1.2.x	メンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 に適用します。 Oracle Hyperion Financial Close Management では、メンテナンス・リリースの適用はリリース 11.1.2.1 およびリリース 11.1.2.2 以降でのみサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
リリース 11.1.1.0.x -> 11.1.1.3.x	メンテナンス・リリースをリリース 11.1.1.4 に適用してから、リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース 11.1.2.3 へ
リリース 9.3.3.x	リリース 11.1.2.2 にアップグレードしてから、メンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 に適用します。
複数のリリースが含まれている環境。1 つの Oracle Hyperion Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境	Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM システム製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する説明を参照してください。

注意: リリース 9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x (Oracle Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 および 9.3.1.7 を除く) または 11.1.1.x から開始する場合、まずリリース 11.1.1.3 にアップグレードしてからメンテナンス・リリースをリリース 11.1.1.4 に適用し、続いてリリース 11.1.2.3 にアップグレードすることをお勧めします。それより前のリリースから始める場合、開始リリースからのアップグレードが直接サポートされるリリースのうち最新のものにアップグレードすることをお勧めします。

Essbase と Shared Services との間のセキュリティの同期は、リリース 9.3.1.4.1 以降の Essbase リリース 9.3 では削除されていました。ただし、Essbase および Oracle Hyperion Shared Services リリース 11.1.1.3 では、セキュリティ情報は同期されます。このため、Essbase リリース 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 または 9.3.1.7 を使用している場合は、まずすべての製品をリリース 9.3.3 にアップグレードしてからリリース 11.1.2.2 にアップグレードし、続いてメンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 に適用する必要があります。

このリリースで修正された問題

この項では、リリース 11.1.2.3.000 で修正された不具合について説明します。以前のリリース間で修正された不具合のリストを確認するには、Defects Fixed Finder を使用します。このツールを使用すると、所有している製品および現在の実装リリースを特定できます。シングル・クリックによって、修正された不具合の説明および関連するプラットフォームとパッチ番号を示すカスタマイズ済レポートが生成されます。このツールはこちらにあります:

EPM Workspace

- 16500654 -- EPM Workspace で Mozilla Firefox を使用する場合、ユーザーは、Mozilla Firefox メッセージ「Error Loading ADF for module with id: bpm.Desktop Message: this.getDocument() is null.」が表示される問題を解決するために、ブラウザ・ウィンドウを 2、3 回リフレッシュする必要があります。
- 16271340 -- Microsoft Windows 7 で Mozilla Firefox を使用する場合、エクスプローラでフォルダをクリックすると、間違ったフォルダが選択されることがあります。
- 14726802 -- EPM Workspace で、「詳細」リンクを使用して「お気に入り」レイアウト領域から選択した場合、個人ページへの「ホーム・ページ」リンクが機能しません。

- 13947820 -- ユーザーは、最後にログオンしたユーザーを EPM Workspace の「ログオン」画面に表示しないように選択できます。
- 13828819 -- Internet Explorer 9 で EPM System Architect グリッド・エディタを起動すると、EPM Workspace 画面が空白になることがあります。
- 13805926 -- Microsoft Internet Explorer 9 で列が正しく表示されない場合、データが正しく表示されるように列のサイズを変更する必要があります。
- 13683019 -- Microsoft Internet Explorer 9 で、ダイアログとメニューの枠線が表示されないことがあります。
- 10411787 -- 複数の EPM System アプリケーションを同時に起動すると、アプリケーションの起動が遅れることがあります。
- 10318509 -- ユーザーは、「コピー」/「貼付け」ショートカット・メニューを使用してエクスプローラで BQY ジョブ出力をコピーできます。「ファイル」ショートカット・メニューから「保存」オプションを使用する EPM Workspace。'ユーザーは、「コピー」 - 「貼付け」ショートカット・メニューを使用してエクスプローラで BQY ジョブ出力をコピーできます。'

Financial Reporting

- 16485267 -- PDF プレビューおよび印刷プレビューのレポート・フォーマットが正しくありません。
- 16458574 -- レポートにマージされた行が含まれる場合、行の網掛けの設定に失敗します。
- 16388236、13331520 -- Financial Reporting レポートが Microsoft Excel に .xlsx 形式でエクスポートされるようになりました。
- 16210498 -- 「PDF のブック全体」を使用して大きな Financial Reporting ブックを実行すると失敗し、OutofMemory エラーが戻されます。
- 16070533 -- バースト用にバッチをスケジュールする場合、すべてのバースト・メンバーについて、取得されるデータは、バッチ POV ではなくユーザー POV に基づいています。
- 16027785 -- Financial Reporting Studio では、ユーザーはテキスト・ファイルからアラビア語テキストを Financial Reporting Studio のフィールドにコピーして貼り付けることはできません。
- 15966061 -- 太字フォントが指定されている場合、PDF プレビューまたは印刷プレビューに表示されません。
- 15898169 -- 「ブックの設定」で Financial Reporting ブックの用紙サイズを変更すると、失敗します。
- 15898054 -- Financial Reporting Studio インストールでは、ノルウェー語ロケールはサポートされていません。
- 15891885 -- Financial Reporting レポートを Microsoft Excel にエクスポートすると、10 進数値に引用符が追加されるため、その値は Microsoft Excel でテキストとして処理されます。

- 15886385 -- Financial Reporting のメンバー選択で 0 レベルのメンバーを検索する際の検索パフォーマンスが向上しました。
- 14832993 -- ブック・エディタのプロパティ設定で用紙サイズが A3 に設定されているのに、「PDF のブック全体」を実行すると A4 用紙サイズで印刷されます。
- 14698503 -- エクスポートされた Oracle Hyperion Financial Management レポートが、Microsoft Excel でクエリー準備モードになりません。
- 14672859 -- 2 つの Financial Reporting レポート間で切替えを行うと、「視点 (POV)」が正しくリフレッシュされません。
- 14657325 -- Financial Reporting レポートの行に条件付き非表示条件を適用すると、データは列に存在していても非表示になります。
- 14643246 -- PDF プレビューを使用してレポートを表示する場合、箇条書き点を含むテキスト・ボックスがレポートに含まれていると、そのテキスト・ボックスは表示されません。
- 14630995 -- Financial Reporting PDF ファイルでは、改行文字を含むセル・テキストは、間に空白行が入った複数の個別の行で表示されます。
- 14625924 -- バッチ・スケジューラでは、「ステータス」を除くすべての列がソートされます。
- 14612879 -- 完全フォーマットとして Microsoft Excel にエクスポートされた Financial Reporting レポートでは、負の数が誤ってテキストとしてフォーマットされます。
- 14610983 -- セルが列軸と行軸の両方に沿ってマージされている場合、PDF プレビューで複数のグリッドを含むレポートを実行すると失敗します。
- 14606461 -- ローカル・マシン上の一時フォルダに対するユーザー・アクセス権限によっては、PDF プレビューで Financial Reporting レポートを実行すると失敗します。
- 14605607 -- Financial Reporting ブックが実行されたが結果が戻されない場合、日本語ロケールでは、「ブックに結果が含まれていません。」という情報メッセージが正しく表示されません。
- 14605585 -- ブラウザの言語を日本語に設定すると、Financial Reporting ブックが正常に完了しなかった場合にエラー・メッセージが正しく表示されません。
- 14551232 -- メンバー名がブラケット(<>)で囲まれている場合、HTML および PDF の Financial Reporting レポートに列ヘッダーが表示されません。
- 14550512 -- Financial Reporting リリース 9.3.3 から Financial Reporting リリース 11.1.2.3 にアップグレードした後、PDF プレビューで Financial Reporting レポートを表示すると、ヘッダーが切り捨てられます。
- 14515109 -- Financial Reporting リリース 9.3.3 から Financial Reporting リリース 11.1.2.3 にアップグレードした後、PDF でレポート・ヘッダーが正しいフォントで表示されません。
- 14503408 -- 「グリッド・ヘッダーを固定」が設定されている場合、レポート・コンテンツの右側に余分な空白が入ったレポートが表示されます。

- 14478829 -- ページ見出しにソートが定義されている場合、すべてのレポート・グリッドの左上隅に数字"1"が表示されます。
- 14476339 -- 定義されている最初のグリッドが変更されると、複数のグリッドが含まれる Financial Reporting レポートでは様々なエラーが断続的に報告されます。
- 14462247 -- クエリー準備モードでエクスポートされた Financial Reporting レポートでデータをリフレッシュすると、次のエラー・メッセージが表示されます: 「無効なグリッドです。行または列にメンバーがありません。非表示オプションをチェックしてアクションをもう一度実行してみてください。」
- 14462237 -- クエリー準備 Financial Reporting レポートを Microsoft Excel にエクスポートすると、カスタム・ヘッダーがグリッド内に表示されます。この問題が発生すると、「有効なメンバーではありません。」というメッセージが表示されます。
- 14402473 -- PDF プレビューで Financial Reporting レポートを実行すると、Workspace エクスプローラ・モジュールでのレポート変更日付が更新されません。
- 14401761 -- Financial Reporting Studio で、PDF レポートのテキスト・オブジェクト内の URL リンクが有効になっていません。
- 14377663、14204717 -- 「名前を付けて保存」を使用して Microsoft Word ドキュメント(.doc)から HTML ファイル(.htm)に変換されたファイルが Financial Reporting ブックに含まれる場合、そのブックには、多種の文字が含まれます。
- 14349095 -- Financial Reporting レポートでは、行と列のテンプレートの下にある行のカスタム見出しは保持されません。
- 14342606 -- Smart View を使用して Microsoft Excel 2010 にインポートしてリフレッシュした Financial Reporting レポートは、余分な列が入って表示されます。
- 14328330 -- コマンドラインからバッチ実行によってスナップショット・レポートを生成することはできません。
- 14275367 -- Financial Reporting レポートが関数グリッドまたは Microsoft Office テーブルとして Microsoft Word 2007 ドキュメントにインポートされると、枠線のフォーマットが保持されません。
- 14275359 -- Financial Reporting レポートが関数グリッドまたは Office テーブルとして Microsoft Office 2007 ドキュメントにインポートされると、行見出しのフォーマットの配置が保持されません。
- 14271273 -- バッチのバーストを使用して、ロシア語の名前を含む PDF ファイルを外部ディレクトリにエクスポートすると、出力されたオブジェクトには、元のロシア語の名前でなく判読不能なファイル名が含まれます。
- 14256567 -- 1 ページの Financial Reporting レポートが Smart View にエクスポートされてから Microsoft Word で開かれると、Microsoft Word 印刷レイアウトの 1 ページ・フォーマットに収まりません。
- 14249758 -- スケジュールされたブックで MHTML 出力が指定されている場合、ブックに Microsoft Office ドキュメントが含まれていると、ブックの実行に失敗します。

- 14242304 -- EPM Workspace から Financial Reporting レポートをエクスポートすると、Oracle Hyperion Planning で("("、")"、"."などの文字を含むテキスト・フィールドは切り捨てられます。
- 14238828 -- バッチのバーストを使用する場合、バッチの実行後に送信される電子メール通知の本文に、「生成されたスナップショット・リンク」というテキストが 1 回以上出現します。
- 14222289 -- Financial Reporting ブックに取得できない Financial Reporting レポートが含まれている場合、「PDF のブック全体」でブックを表示すると、エラー・メッセージが表示されます。日本語ロケールでは、メッセージが正しく表示されません。
- 14221557 -- EPM Workspace で関連コンテンツ・サーバーを変更した後、セル・プロパティおよび条件付きフォーマットでセルに定義されている関連コンテンツが断続的に複製されます。
- 14211481 -- レポートを完全フォーマットの Microsoft Excel 出力にエクスポートする場合、ページ次元メンバーが定義された複数のグリッドがそのレポートに含まれていると、Microsoft Excel 出力のページ・メンバー出力のソート順序が PDF 出力とは異なります。
- 14207996 -- 類似する複数のデータベース・タイプへのデータベース接続を持つグリッドを含む Financial Reporting レポートを実行すると失敗し、「■エラー: クエリーの実行: 1 | Error: Executing query: 1」というメッセージが戻されます。
- 14192179 -- Microsoft Excel 2010 にエクスポートされた Financial Reporting レポートで、表示の問題が発生し、ファイル・フォーマット・エラー・メッセージが戻される場合があります。
- 14175096 -- 「PDF にエクスポート」としてバッチで実行するようにスケジュールした Financial Reporting ブックに、小数位の値を持つ棒グラフのある Financial Reporting レポートが含まれる場合、ブック出力ではこれらの値に対応する小数点以下の桁数に変換されます。
- 14145217 -- バッチのバーストを指定した場合、バッチは正常に完了しますが、そのバッチはスケジューラから削除されます。
- 14064018 -- 無効なメンバーを入力してエラーが戻された後、有効なメンバーを選択すると、ユーザー POV メンバー選択に関する警告メッセージが表示されます。
- 14058165 -- 「PDF のブック全体」を実行すると、PDF で表示される注釈は、レポートが前回実行されたときの注釈になります。
- 14019606 -- ブック POV で AND 条件を含む拡張メンバー選択が使用されている場合、そのブックの実行に失敗します。
- 14010520 -- 複数のデータ・ソースを含むレポートのユーザー POV は、正しくリセットされません。
- 14001745 -- PDF プレビューで POV メンバーを変更すると、2 つの「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログが表示されます。

- 13981329 -- Financial Reporting Studio で、Financial Reporting リリース 9.3.3.0 からリリース 11.1.2.x に移行されたレポートを開こうとすると、エラー・メッセージが表示されます。
- 13955667 -- Smart View を使用して Microsoft Excel にインポートされた Financial Reporting レポートでは、ファイル名としてファイル名ではなくファイル説明が使用されます。
- 13951644 -- Essbase の重複するメンバーにメンバー選択関数(「{0}の子」や「{0}の子孫」など)を使用して Oracle Hyperion Profitability and Cost Management アプリケーションに対するレポートを作成する場合、MDX モードを使用してレポートを実行すると、エラーが表示されます。
- 13943443 -- EPM Workspace で、「名前を付けて保存」を使用してブックまたはバッチを保存した場合、新しく作成したブックまたはバッチの所有者は管理者になります。管理者がブックまたはバッチを所有しているため、ユーザーはそのブックまたはバッチにアクセスできない可能性があります。これらの問題を解決するには、ブックまたはバッチをコピーして貼り付けてから、編集用を開きます。
- 13942187 -- Financial Reporting レポートで、ブラケットを含むメンバー名が正しく表示されません。
- 13932392 -- バースト・プレビュー・リストでは 191 を超えるエントリーは取得できません。
- 13929642 -- バッチ・プロパティを表示または編集する際に、バッチ POV が変更されます。
- 13920138 -- Financial Reporting レポートのテキスト・データが Microsoft Excel に正しくエクスポートされません。
- 13920079 -- Financial Reporting レポートでは、レポートの別名にアポストロフィ文字(')を使用した Essbase 属性が含まれる場合、チャートが表示されません。
- 13915611 -- Financial Reporting レポートの関連するコンテンツでアンパサンド文字(&)を含むメンバー名を使用することはできません。
- 13891691 -- FRExecute 関数を含む外部 Microsoft Word ドキュメントが含まれる Financial Reporting ブックでは、「PDF のブック全体」で Microsoft Word ドキュメント内のグリッドが表示されません。
- 13812882 -- レポートの一番上の行を非表示にできません。
- 13799042 -- レポートを PDF 形式でプレビューすると、テキストが正しく表示されない場合があります。
- 13767753 -- 新規ユーザーがユーザー POV を設定していない場合、そのユーザーはバッチをスケジュールまたは実行できません。
- 13720990 -- エクスプローラ・フォルダに同じ名前のレポートが 2 つ存在する場合、タイムスタンプが古い方のレポートを削除しようとする、新しい方のファイルが削除されます。
- 13683632 -- Financial Reporting ブックでは、目次がブックの HTML プレビューおよび PDF プレビューと同じように表示される必要があります。

- 13646200 -- Financial Reporting ブックの静的 HTML 出力の目次では、親レポートの下に子レポートがある場合、親レポート名がヘッダー・テキストとして表示される必要があります。
- 13646040 -- Financial Reporting レポートで、指定した文字数がインデントされるようにメンバー・ラベルがフォーマットされている場合、メンバー・ラベルが列幅よりも大きければ、折り返されたメンバー・ラベルの 2 番目の行も同じ文字数だけインデントされる必要があります。
- 13645751 -- Financial Reporting Studio で、双方向ロケールでプレビューされたレポートが双方向ロケールではなく英語で表示される場合があります。
- 13629751 -- ブックが PDF プレビューで開いている場合、PDF アイコンを選択できません。
- 13464402、13329735 -- ユーザーが「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログ・ボックスおよび「プロンプト」ダイアログ・ボックスのサイズを変更できるようになりました。
- 13359276 -- ファイル・システムから Reporting and Analysis にバッチを移行すると、「日付」列が空になります。
- 12901897 -- ブック・エディタで複数のアイテムが選択されている場合、「削除」ボタンが有効になりません。
- 12768742 -- 管理ユーザーが Microsoft Windows 7 64 ビット・クライアント・マシンに Financial Reporting をインストールした場合、管理ユーザー以外のユーザーに対して「スタート」メニューに Financial Reporting のショートカット・アイコンが作成されません。
- 12768354 -- Financial Reporting レポートを Microsoft Excel にエクスポートすると、列のサイズ調整が正しく行われない場合があります。
- 11828123 -- Essbase フェイルオーバーが構成されている配置では、Essbase サーバーのフェイルオーバーが発生すると、メンバー選択が応答しません。
- 10279479 -- グリッド行が追加されると、ページ番号が更新されます。

Interactive Reporting

- 16458499 -- 現在のユーザーに定義されている行レベルのセキュリティ制約は適用されません。
- 15907011 -- セクションを「タブ区切りテキスト」として Oracle Hyperion Interactive Reporting Studio からエクスポートする場合、「引用符なしでエクスポート」プロパティを無効化しても、引用符を含むセクションがエクスポートされます。
- 14822099 -- 小数点としてカンマを使用するロケールでは、条件付きフォーマットが機能しません。
- 14653043 -- サポートされていないロケールがロードされると、エラー・メッセージが表示されます。
- 14477906、13716540 -- Microsoft Windows AMD64 マシンでは、Dashboard Studio インспекタ・ユーティリティを起動できません。この問題を解決するには、

Microsoft Win32 を使用して Dashboard Studio インспекタ・ユーティリティを実行します。

- 14274502 -- 「名前を付けてリポジトリに保存」を使用して Oracle Hyperion Interactive Reporting Web Client から BQY を保存した後、新しいファイル名を指定すると、ファイルの保存後にエクスプローラに「サーバーからの結果を処理中にエラーが発生しました」というメッセージが表示されます。
- 14137255 -- 管理ユーザーを無効化した後、Oracle Hyperion Interactive Reporting ジョブを実行およびスケジュールできません。
- 13787723 -- レポートを Interactive Reporting リリース 11.1.1.3 からリリース 9.x に移行した後、フォーマットが失われます。
- 13730905 -- 主索引なしのテーブルを Teradata に作成し、接続タイプが「ODBC/テラデータ」の OCE ファイルを Interactive Reporting Studio に作成した場合、「フィルタを適用して、テーブル・カタログに表示されるテーブルを制限します。」から「値の表示」を選択すると、テーブルのリストの取得に失敗します。
- 13498081 -- Teradata 13 では、データ型がタイムゾーンのタイムスタンプに対して予期しない結果が戻されます。
- 12962824 -- EPM Workspace で OCE マッピングを置換した場合、OCE プロパティが新しいマッピングに更新されません。
- 12759860 -- ローカルに保存された BQY ファイルから EPM Workspace にアクセスする場合、カスタム・ログイン・クラスが使用されません。

Production Reporting

- 14780742 -- Oracle Hyperion SQR Production Reporting では、名前が 30 文字を超えるデータベースの作成がサポートされるようになりました。
- 14692306 -- 式および WHERE 句で DATE 列が使用されている場合、-XP コマンドライン・フラグを使用すると、構文エラーが表示されます。
- 14232127 -- Production Reporting データ・ソースにはホスト名と接続名の両方が表示される必要があります。
- 13723195 -- Production Reporting によって、間違っただ目次エントリを含む HTML が生成されます。
- 13718162 -- リリース 9.3.3.0 から 11.1.1.x に移行された Production Reporting レポートでは、HTML でグラフィックが正しく表示されません。
- 13636249 -- Production Reporting 実行可能ファイルの再リンクに必要な共有ライブラリが提供されていませんでした。
- 12629620 -- 「枠線」が「はい」に設定されている場合、円グラフと折れ線グラフが枠線付きで表示されません。
- 12580312 -- 「凡例」が「いいえ」に設定されている場合、Production Reporting レポートに円グラフの凡例が表示されます。

Reporting and Analysis Framework

- 15968785 -- 汎用ジョブに対して「取得」オプションは機能しません。
- 15953094 -- 複数のスケジュール通知からの電子メール添付ファイルは、最後に送信される電子メールに統合されます。
- 14528254 -- BQY ファイルを削除しても、ディスクから物理ファイルが削除されず、ディスク領域に問題が発生する場合があります。
- 14275654 -- ジョブにクエリー制限を設定する場合、日付フィルタを"Today"や"Yesterday"などのカスタム値で更新できません。
- 14059092 -- 管理ユーザーが「コンテンツのカスタマイズ」を使用して個人用ページを編集してから、「置換」オプションを使用して改訂済のページを公開した場合、他のユーザーには変更内容が表示されません。そのかわりに、元のページが表示されます。
- 13258052 -- グローバル管理者の役割を持つユーザーが、ファイルをユーザーにプッシュできるのに、グループにはプッシュできない場合があります。
- 13818380 -- EPM Workspace では、レジストリ設定で別のポートが指定されていても、電子メールの送信に SMTP ポート 25 が使用されます。
- 9030459 -- 異なる 2 つのクエリー・セクションにそれぞれ同じ名前のクエリーが含まれる場合、BQY 内で UNION を使用してこの 2 つのクエリーが結合され、結合されたクエリーで同じ名前の変数フィルタが使用されていれば、一方のクエリー内のフィルタ値を変更すると、もう一方のクエリーのフィルタ値が変更されます。
- 7579450 -- WORLD グループを「委任されたユーザー管理」モードを使用するには、委任リストに追加します。すべてのユーザーおよびグループは、この委任リストの管理者に対して表示されます。

検索

- 13709722 -- V8_KPS_ACTION_QUEUE テーブルへの入力、すべてのデータベース領域を使用して急速に行われます。

Web Analysis

- 15941490 -- Oracle Hyperion Web Analysis Studio は、Oracle Access Manager 11g で機能しません。
- 14650563 -- Oracle Hyperion Web Analysis リリース 9.3.3.x から Web Analysis リリース 11.1.2.2 にインポートされたレポートでは、メンバーの割合を求める計算が失敗します。
- 14414705 -- Web Analysis Studio で、「抑制」を選択してから、「欠落した行の抑制」および「ゼロの行を抑制」を選択した場合、データ表示からこれらのアイテムを抑制できません。
- 14334015 -- チャートに表示する有効な値が存在しない場合、「4 象限チャート」プロパティは表示されません。

- 14162356 -- ロシア語文字を含む Web Analysis レポートを Smart View にインポートすると失敗します。
- 13949221 -- Web Analysis Studio で、メンバーを含むコンボ・ボックスが表示されるとき空になります。
- 13943042 -- Web Analysis Studio でレポートの列幅が「自動サイズ調整」に設定されている場合、レポートが EPM Workspace で開かれると「幅の指定」に変更されます。
- 13910687 -- Web Analysis レポートで、#Missing セルと#NoAccess セルに同じ値が表示されます。
- 13820640 -- Microsoft Internet Explorer 9 で、Web Analysis レポートを開き、「データの編集」モードに切り替えてから「データの編集」モードを終了すると、グリッドが表示されません。
- 13803024 -- Microsoft Internet Explorer では、Web Analysis レポートに対して次元ブラウザがスウェーデン語で表示されます。
- 13707373 -- 英語以外の一部のロケールを使用する Web Analysis Studio では、テキスト・ボックスのフォントの設定に失敗します。
- 13584595 -- EPM Workspace では、分割パネルでスクロールを使用できません。
- 13421348 -- Web Analysis レポートが Microsoft Excel にエクスポートされて Smart View で表示されるとき、POV 次元設定が無視されます。
- 12868158 -- クエリー準備 Web Analysis レポートを Microsoft Excel にエクスポートする場合、ページ次元またはユーザー POV の次元が、Smart View POV と、Microsoft Excel にエクスポートされたクエリー準備レポート内の列に表示されます。
- 9890261 -- Excel クエリー準備へのエクスポートでは、エクスポート時にフィルタ選択を POV およびレポート選択に保存するオプションが含まれる必要があります。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです:

EPM Workspace

- 16463772 -- Microsoft Internet Explorer 7 および 8 で、テーブル行のテキストのディセンダが切り捨てられることがあります。その結果、"g"、"j"、"p"などの小文字が正しく表示されないことがあります。この問題は、Microsoft Internet Explorer 9 または Mozilla Firefox では発生しません。
- 16224034 -- Internet Explorer 9 では、「名前を付けて保存」ダイアログに「マイ Workspace ページとして保存」オプションが表示されません。
- 16045749 -- ARM メニュー・アイテムが表示されるようにするには、Financial Close Management をインストールし、Oracle Hyperion Financial Close

Management に対してログオン・ユーザーをプロビジョニングする必要があります。

- 15963916 -- WORLD グループに対するプリファレンスの設定が機能しません。
- 14751808 -- ネットワーク認証が必要な場合に、EPM Workspace から電子メールが送信されません。
- 14231774 -- Workspace ページで「スクロールバーの表示」オプションが失敗する場合があります。
- 13971124 -- 新規の Financial Reporting ブックにレポートを選択すると、すでに追加されたレポートが選択リストに表示される場合があります。
- 13961560 -- 追加の「マイ Workspace ページ」および「共有 Workspace ページ」をリストするための「詳細」リンクがホームページに表示されるときに、リンクがアクティブでない場合があります。
- 13872149 -- EPM Workspace 11.1.2.2 から OBIEE 10.1.3.4.2 を起動する際に、blank.html をロードできないというメッセージが表示されることがあります。この問題を解決するには、EPM System Web サーバーで使用される httpd.conf を編集します。次の行のすぐ下に:

```
RewriteRule ^/interop/bpmstatic/(.*) /epmstatic/bpmui/$1 [PT]
```

この行を追加します:

```
RewriteRule ^/workspace/thirdparty/bindows/html/blank.html /  
epmstatic/bpmui/thirdparty/bindows/html/blank.html [PT]
```

このディレクティブは、RewriteRule から始まり [PT] で終わる 1 行にする必要があります。

- 13870280 -- Mozilla Firefox 10 で、ページ名にダブルバイト文字が含まれる EPM Workspace ページを保存すると、エラー・メッセージが表示されることがあります。ページは正しく保存されるため、このメッセージは無視してください。
- 13857317 -- ユーザーが Production Reporting ジョブまたはジョブ出力を EPM Workspace ページに追加できない場合があります。
- 13799595 -- EPM Workspace の互換表示を無効にする必要があります。デフォルトでは、Microsoft Internet Explorer 9 のイントラネット・サイトの互換表示は有効になります。EPM Workspace で互換表示が有効になっている場合、ダイアログが切り捨てられる、オブジェクト選択が正しくない、ツリー・ビューが予期せず展開されるといった問題が発生することがあります。また、Oracle Hyperion Financial Management および Planning アプリケーションの起動時にエラー・メッセージが表示されます。

ホストに対して Microsoft Internet Explorer 9 のデフォルトの互換表示設定を変更することはできません。この問題を解決するには、「互換表示設定」ダイアログのすべてのボックスの選択を解除します。これにより、EPM Workspace の互換表示が無効になります。互換表示を有効化および無効化する場合、管理者は「Windowsコンポーネント」>「Internet Explorer」>「互換表示」を選択し、ポリシー名「Quirks モードサイトのポリシーリストを使用する」を使用してグループ・ポリシー設定を作成できます。<http://technet.microsoft.com/en-us/library/gg699401.aspx> を参照してください。

- 13733894 -- Mozilla Firefox バージョン 4 以降で EPM Workspace ログオン・ページを表示するには、Mozilla Firefox XUL アドオンをインストールする必要があります。このアドオンでは、Mozilla Firefox が EPM System Web サーバーに接続する際に XUL テクノロジーが使用されます。アドオンはエンド・ユーザーがインストールして構成することも、管理者がユーザーに配布する前に構成することもできます。

ユーザーが XUL アドオンをインストールして構成するには:

1. <https://addons.mozilla.org/en-us/firefox/addon/remote-xul-manager/>から Mozilla Firefox に Remote XUL Manager をインストールし、Mozilla Firefox を再起動します。
2. Mozilla Firefox で「Tools」>「Web Developer」>「Remote XUL Manager」を選択して、「Remote XUL Manager」ダイアログを開きます。
3. Remote XUL Manager で「Add...」をクリックし、EPM System Web サーバーで使用されるホストまたはドメインの名前ごとにエントリを追加して、「File」、「Close」の順に選択します。たとえば、一般的な配置では、テスト用の EPM System Web サーバーを `epmtest.example.com` に設定し、本番サーバーを `epm.example.com` に設定します。Remote XUL Manager は両方のホスト名(`epmtest.example.com` と `epm.example.com`)を使用して構成することも、ドメイン名(`example.com` など)のみを使用して構成することもできます。短いホスト名(`http://myserver/` など)または IP アドレス (`http://10.12.1.2/` など)を使用して EPM System Web サーバーにアクセスする場合は、これらの名前または IP アドレスを追加します。

管理者がアドオンをインストールして構成し、ユーザーに配布するには:

1. ユーザー手順の 1 から 3 までを実行して、XUL アドオンをインストールして構成します。
2. 「Remote XUL Manager」ダイアログを開いて「File」>「Generate Installer」を選択し、ドメインを選択します。オプションでユーザーのメッセージをカスタマイズし、XPI ファイルを生成します。
3. XPI ファイルを共有ネットワーク場所にコピーしたり、電子メールを使用するなど、便利な方法を使用して XPI ファイルを配布します。
4. Mozilla Firefox を開いて XPI ファイルを Mozilla Firefox ウィンドウにドラッグするように、ユーザーに指示します。場合によっては、Mozilla Firefox を再起動する必要があります。

標準メッセージまたは指定したメッセージがドメインのリストとともに表示された後、Remote XUL Manager がユーザーのマシンから自動的にアンインストールされます。これで、EPM Workspace は正常に機能します。

- 13794606 -- Microsoft Internet Explorer 9 を使用する場合、ユーザーは「最近開いたページ」リストからオブジェクトを開けません。この問題を解決するには、EPM Workspace からいったんログオフして、再度ログオンします。
- 13793825 -- 双方向言語で Internet Explorer 9 を使用する場合、バッチのスケジューリング・ウィザードおよびブック・エディタで、ウィザードを最初に開いたときに小さな「選択アイテム」リストが表示されます。ブラウザ・ウィンドウ

ドウのサイズを変更すると UI が正しく表示され、「選択アイテム」リストでのナビゲートが簡単になります。

- 13769862、13714812 -- EPM Workspace ページで、「お気に入り」、「アラート/例外」、「アプリケーション」または「URL」を含むレイアウト領域の「編集」ボタンおよび「起動」ボタンが機能しません。別の URL を使用するように URL レイアウト領域を変更するには、レイアウト領域を削除してから再度追加します。
- 13769770 -- Workspace ページの編集時に「データ・ソース」フィールドが完全に表示されない場合は、テキストを強調表示し、スクロールしてフルパスを表示します。
- 13719326 -- Oracle BI EE を EPM Workspace に統合した場合、ログオフしてから再度 EPM Workspace にログオンすると、ブラウザが予期せず閉じることがあります。この問題を解決するには、「ファイル」メニューから「ログオフ」を選択してからブラウザを閉じます。このエラーは、Oracle Hyperion Reporting and Analysis を使用する製品が構成されている場合は発生しません。
- 13714992 -- EPM Workspace ページで双方向言語ロケールを使用する場合、レイアウト領域のサイズ変更が適切に機能しません。この問題を解決するには、英語でページを編集してから、双方向言語ロケールでページを表示します。
- 13714759 -- 双方向ロケールを使用する場合、EPM Workspace ページを作成する際にレイアウト領域が正しく配置されないことがあります。
- 13709641 -- エクスプローラで双方向ロケールを使用する場合、列の順序を変更できません。
- 13704836 -- Microsoft Internet Explorer 7 および 8 で検索機能を使用してリポジトリを参照する場合、双方向言語を使用していると、画面を正しくスクロールできません。この問題を解決するには、かわりに Microsoft Internet Explorer 9 または Firefox を使用します。
- 13704532 -- 双方向ロケールを使用する場合、EPM Workspace ページにレイアウト領域を追加すると、複数のレイアウト領域が上下に重なります。
- 13704493 -- 双方向ロケールを使用する場合、EPM Workspace ページでコンテンツをレイアウト領域にドラッグできません。この問題を解決するには、コンテンツを EPM Workspace ページの空の領域にドラッグします。このアクションによって、ドラッグしたコンテンツを含む新規のレイアウト領域が作成されます。
- 13704443 -- ホームページの Workspace ページのレイアウト領域に新規の EPM Workspace ページが表示されない状況が断続的に発生します。この問題を解決するには、EPM Workspace からいったんログオフして、再度ログオンします。
- 13704310 -- 双方向ロケールを使用する場合、EPM Workspace ページの設計時にレイアウト領域を移動できません。
- 13107982 -- アラビア語ロケールで新規の EPM Workspace ページを編集する場合、右マウスのコンテキスト・メニューが正しく機能しません。新規の EPM Workspace ページにレイアウト領域を配置するには、メインの「編集」メニューを使用してレイアウト領域(「お気に入り」、「アプリケーション」リストなど)を挿入します。

- 12865271 -- Mozilla Firefox を使用する場合、ユーザーは PDF 形式の Financial Reporting レポートおよび Planning アプリケーションを開いた後にログオフできません。
- 10359325 -- 「プリファレンスの管理」を使用してユーザーまたはグループのデフォルト・プリファレンスを割り当ててから、デフォルトの開始ページとして「ドキュメント」を選択すると、次のエラー・メッセージが表示される場合があります:

「指定された起動ドキュメントがリポジトリにありません。プリファレンスの「全般」タブで、新しい起動ドキュメントを選択してください。」

このエラー・メッセージは無視してかまいません。

- 10239838 -- URL でパラメータ `bpm.logoff=false` が使用されている場合、ホーム・ページでオブジェクトが「最近開いたページ」に追加されません。
- 9788411 -- 管理者が「プリファレンスの管理」でユーザーを選択して「次へ」をクリックすると、プリファレンスの管理ウィザードにユーザーのプリファレンスが正しく表示されません。具体的に言うと、開始コンテンツのタイプ(ドキュメントやエクスペローラなど)は表示されますが、コンテンツの詳細(ドキュメント MyReport やフォルダ/Users/MyName など)は表示されません。
- 8940113 -- EPM Workspace サーバーがクラスタ構成内にある場合、EPM Workspace サーバーの設定は、クラスタ化された EPM Workspace Web アプリケーションを再起動した後に有効になります。
- 7483255 -- EPM Workspace ページを編集して「ファイル」>「名前を付けて保存」を選択すると、新しい EPM Workspace ページと既存の EPM Workspace ページに変更が保存されます。新規の EPM Workspace ページのみに変更を保存するには、既存のページを開いて、ページに変更を加える前に「ファイル」>「名前を付けて保存」を選択して新しい名前でページを保存してから、新規のページを開いて編集します。
- 6585295 -- 表示領域より幅の広いコンテンツを持つツリーにスクロールバーが表示されますが、機能しない場合があります。この問題を解決するには、垂直スプリッターを右に移動して表示領域のサイズを変更し、より多くのコンテンツが表示されるようにします。
- 6581290 -- Linux または Apple Macintosh OS X オペレーティング・システムで Mozilla Firefox を使用している場合、Microsoft Internet Explorer でマウスをクリックしてオブジェクトを選択すると、間違ったオブジェクトが選択される場合があります。この問題を解決するには、TrueType フォントの Liberation ファミリーをインストールし、使用する必要があります。

Linux の場合、推奨されるフォント・パッケージは Liberation-fonts パッケージです。このパッケージは、次のコマンドを使用してインストールできます:

```
yum install liberation-fonts
```

変更を有効にするには、X Windows サーバーを再起動する必要があります。

Apple Macintosh OS X の場合、Liberation フォントをユーザーの `$HOME/Library/Fonts` ディレクトリにコピーします。

- 6566264 -- Microsoft Internet Explorer 7 以降で、メニューが重なったり、不要なスクロール・バーが表示される場合があります。Internet Explorer 7 で、ユー

ザーが Web アプリケーションで任意のサイズのウィンドウを開けるかどうかを制御できる新機能が導入されました。デフォルトでは、Web アプリケーションで任意のサイズのウィンドウを開けません。このため、状況によってはメニューが正しく表示されないことがあります。メニューを正しく表示するには:

1. 「ツール」 > 「インターネット オプション」 を選択します。
 2. 「セキュリティ」 タブで、Web アプリケーションのゾーンを選択し、「レベルのカスタマイズ」 をクリックします。
 3. 「その他」 から「サイズや位置の制限なしにスクリプトでウィンドウを開くことを許可する」 に移動して、「有効にする」 をクリックします。
 4. 「OK」、「はい」 の順にクリックしてから、再度「OK」 をクリックします。
- 6564975 -- マルチバイト文字を含むファイル名とフォルダ名は、80 文字以下にする必要があります。
 - 6562984 -- Microsoft Internet Explorer で、Microsoft Office ファイルを新規ウィンドウ内に開けない場合があります。

Microsoft Internet Explorer で Microsoft Office ファイルを新規ウィンドウ内に開くには:

1. 「ツール」 > 「インターネット オプション」 を選択します。
 2. 「セキュリティ」 タブで Web アプリケーションのゾーンを選択し、「レベルのカスタマイズ」 を選択します。
 3. 「ダウンロード」 で「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」 に移動し、「有効にする」 を選択します。
 4. 「OK」、「はい」 の順にクリックしてから、再度「OK」 をクリックします。
- 6540172 -- グループ・プリファレンスは、現在のグループ・メンバーにのみ適用されます。グループ・プリファレンスの設定後にグループに追加されたユーザーには適用されません。
 - 6539333 -- 新規ドキュメント・ウィザードを使用して Interactive Reporting ドキュメントを作成する場合、アクセス権のないファイル(別のユーザーによりインポートされたファイルなど)を選択できます。そのようなファイルを選択した場合、ドキュメントにアクセスする権限がないというエラー・メッセージが表示され、新規ドキュメント・ウィザードが閉じます。
 - 6537899 -- Mozilla Firefox で、一般的なスプレッドシートや Microsoft Word 形式のドキュメントが別のウィンドウ内に開きます。ドキュメントは、Microsoft Internet Explorer を使用した場合のようにブラウザに組み込まれません。

Financial Reporting

- 16622639 -- Financial Reporting Studio をインストールする際に、コマンド・プロンプト・ダイアログに次の警告が表示されます: tools.jar を検出できません。C:\...lib\tools.jar 内にある必要があります。この警告メッセージは Financial Reporting Studio 構成に影響を与えることはなく、インストールが完了すると自動的に消去されます。

- 16612248 -- Financial Reporting Studio インストーラで、言語選択リストにポーランド語が表示されません。
- 16585422 -- Websphere を使用して配置されたアプリケーションでは、注釈監査ファイル annotationaudit.log を使用できません。
- 16558445 -- PDF プレビューでは、Financial Reporting ブックに含まれる Microsoft Office ファイルとテキスト・ファイルが同じ名前(myreport.txt と myreport.doc など)の場合、このようなファイルはすべてブックから除去されます(ただし、ブック内の最後のファイルは例外で、複数回含められます)。この問題を解決するには、ブックに含まれるすべてのファイルに異なる名前を割り当てます。
- 16558236 -- PDF プレビューで Financial Reporting ブックを表示する場合、非 ASCII のファイル名を持つ Microsoft Office ドキュメントは表示されません。
- 16523262 -- Mozilla Firefox を使用している場合、ビューアで PDF レポート、PDF ブックまたは PDF のブック全体から別のダイアログ(「ヘルプ」や「プリファレンス」など)に切り替えると、レポートまたはブックが再実行されることがあります。
- 16506779 -- レポートをスナップショット・レポートとして保存すると、注釈がスナップショット・レポートに保存されません。
- 16483618 -- 「組込みコンテンツ処理の有効化」がデフォルト値「はい」に設定されている場合、Financial Reporting ブック・エディタで Stellant URL を追加すると、POV が表示されません。その結果、Stellant URL に含まれる FRExecute は実行されません。この問題を解決するには、ブック・エディタで「組込みコンテンツ処理の有効化」を「いいえ」に設定してからブックを保存します。
- 16483123 -- ユーザーは、ペーパー・クリップ・アイコンをクリックしてページ次元に作成された注釈を開けません。ページ次元に作成された注釈は、「注釈」ペインで表示する必要があります。
- 16473963 -- モバイル・デバイスでプロンプトを含むレポートをプレビューするには、ポップアップをブロックするモバイル・ブラウザ設定をオフにする必要があります。
- 16450694 -- レポート・オブジェクトにデータ・ソース注釈が含まれる場合、Financial Reporting レポートの本文が正しく表示されません。
- 16437687 -- Microsoft Excel で開いた Financial Reporting レポートでは、Microsoft Excel の特殊文字が正しく解釈されません。
- 16421361 -- 「PDF のブック全体」を使用して Financial Reporting レポートを表示する場合、ブックのユーザー POV を変更した後、関連するコンテンツが「目次」に表示されないか、ブック・コンテンツで使用可能になりません。
- 16413676 -- 英語以外のロケールを使用する場合でも、モバイル・デバイスの PDF プレビューで使用可能な「Launch Out」オプションは英語ロケールでのみ表示されます。
- 16409859 -- 3 桁ごとの区切り文字として空白が選択されている場合、3 桁ごとの区切り文字を必要とする値は、Microsoft Excel にエクスポートされるとき、間違っって先頭に引用符が付きます。たとえば、空白が 3 桁ごとの区切り文字になっている場合、値 20,536 は 20 536 として表示されます。ところが、レポー

トが Microsoft Excel にエクスポートされる時は、'20 536 として表示されま
す。

- 16408267 -- Internet Explorer を使用している場合、テキスト・オブジェクトに注釈を作成するには、「表示」ペインで「新規注釈」ボタンをクリックし、新しい注釈ダイアログの「コンテキスト」タブから目的のテキストを選択します。テキスト・オブジェクトを右クリックしてテキスト・オブジェクトの注釈を追加することはできません。
- 16407560 -- Financial Reporting Studio で、ユーザーが「HTML プレビュー」を選択すると、ブラウザのロケールではなくクライアントのロケールでレポートが表示されます。
- 16406555 -- 英語以外のロケールで Financial Reporting を使用する場合、行を強調した後に表示される文字列の 2 つ("Top"および"<Leading Dots>")が英語ロケールで表示されます。
- 16406328 -- 中国語ロケールで Financial Reporting に LabeledCellText 関数を挿入すると、無効なパラメータ・エラーでレポートが失敗します。この問題を解決するには、関数を手動で全幅引用符から半幅引用符に編集します。
- 16399536 -- 英語以外のロケールで Financial Reporting を使用する場合、「開始」メニューの Uninstall Financial Reporting Studio のアンインストール・オプションが英語ロケールで表示されます。
- 16386578、13812555 -- 「注釈」ダイアログで、フォント・サイズおよびフォント名を使用できません。
- 16386397 -- 選択したロケールによっては、注釈監査ログ (annotationaudit.log) の各行のタイムスタンプの日付フォーマットが正しくないことがあります。
- 16365191 -- 「メンバーの選択」ダイアログが、レポートの作成時に使用したブラウザ・ロケールではなく、EPM Workspace ユーザー・プリファレンスで指定したロケールで表示されます。
- 16365065 -- Financial Reporting Studio に使用されるロケールは、EPM Workspace のユーザー・プリファレンスでなく Financial Reporting Studio のログオン・ページで指定します。
- 16340599 -- Weblogic サーバーでは長いファイル名が切り捨てられます。
- 16328503 -- ユーザーがバッチのスケジュール時に「zip として PDF を電子メールで送信」を指定した場合、1 つのレポートのみを含むバッチは zip されたファイルとして電子メールで送信されません。
- 16311856 -- Financial Reporting Studio でツール・チップ・テキストが表示されません。
- 16304293 -- レポートで定義されているグリッド配置によっては、Financial Reporting リリース 11.1.1.x から移行されたレポートに対する PDF ファイルのグリッド配置が正しくないことがあります。
- 16303067 -- Financial Reporting Studio では、あるフォルダ(my_monthly_reports など)に格納されているレポートを開くと、そのレポートをスナップショット・レポートとして別のフォルダ(my_daily_reports など)に保存できません。

- 16302422 -- レポート・ヘッダー、本文またはフッター内のレポート・テキスト・オブジェクトにカスタム関連コンテンツを追加した場合、このレポートが EPM Workspace に表示される時、これらのテキスト・オブジェクトの下に長い下線が表示されます。
- 16300873 -- 検索で、「ソース・オブジェクトにリンク」オプションを使用して行または列のテンプレートに添付されたレポートが戻されません。
- 16288952 -- HTML ブック出力を表示しているとき、ブック内のライブ URL の子メンバーであるドキュメントを開けません。
- 16288482 -- FRExecute 関数を含む Stellant HTML ドキュメントを表示すると、ユーザー POV が表示されません。
- 16287714 -- バッチのスケジュール時にタイム・ゾーンを変更すると、間違った時間計算が行われることがあります。
- 16266404 -- Financial Reporting Studio を英語以外のマシンにインストールした場合、ログオン・ページに表示される言語のリストがローカライズされません。
- 16266345 -- アラビア語ロケールを選択した場合、Financial Reporting Studio のログオン・ページの画面右側ではなく左側に言語リストが表示されます。
- 16249504 -- レポートが Smart View にインポートされると、Financial Reporting レポートの列幅が変更されます。
- 16243882 -- Financial Reporting レポート内の CellText 関数で指定されている HTTP リンクが機能しません。
- 16243624 -- グリッド内のテキスト行または列で、GetCell テキスト関数または RetrieveCellDocument オプションを使用すると失敗します。ただし、テキスト・ボックスに対して使用する場合はどちらも機能します。
- 16242828 -- HTML 出力を指定するバッチに含まれるブックに Microsoft Office 2007 アプリケーションへの Stellant URL を追加した場合、この URL がアクティブになりません。
- 16242545 -- ユーザーは Financial Reporting ブックの HTML プレビュー出力から Stellant URL を開けません。
- 16209827 -- マージされた列に指定されたカスタムの見出しおよび色は、1 つ以上の列に 2 つ以上の次元が含まれる複数列 Financial Reporting レポートに表示されない場合があります。
- 16205625 -- Smart View を使用して Microsoft Excel にインポートされたレポートでは、Windows 2007 フォーマットではなく Windows 2003 フォーマットが使用されます。
- 16200372 -- ユーザーが注釈に回答した後、テキストおよび背景に選択されている色は注釈で保持されません。
- 16194831 -- Financial Reporting レポートが HTML プレビューで表示されており、レポート内に注釈が開いている場合、レポート内のショートカット・キーは機能しません。
- 16191268 -- Internet Explorer 9 を使用する場合、EPM Workspace では、プロンプト・ダイアログを表示した後に水平棒および垂直棒が表示されます。

- 16179555 -- Microsoft Word でテキスト・ボックスから FRExecute を使用して生成されたレポートが、ブックの一部として正しく表示されない場合があります。
- 16179050 -- EPM Workspace で POV を変更した場合、現在 Financial Reporting で開いているレポートに変更が反映されません。
- 16049835 -- Internet Explorer 9 を使用する場合、「注釈」ダイアログが正しく表示されません。
- 16045239 -- HTML プレビューで、スナップショット・レポートが注釈添付ファイルとして指定されている場合、その注釈添付ファイルからアクセスすると、スナップショット・レポートが正しく表示されません。
- 16022321 -- HP-UX UNIX 環境で配置が行われた場合、EPM Workspace から FinancialReportingStudio.exe ファイルをダウンロードできません。この問題を解決するには、ファイルをサーバーの場所: //<EPM_ORACLE_HOME>/products/financialreporting/install/bin からクライアント・マシンにコピーしてから、管理者として実行オプションを使用して FinancialReportingStudio.exe を実行して Financial Reporting Studio をインストールします。
- 16015767 -- グリッド内で指定された多数の「置換」値を使用する場合、Financial Reporting レポートを Microsoft Excel または Smart View にエクスポートすると、数値フォーマットのメッセージ(数値フォーマットの HTML エラー: "1.8127"など)が表示されることがあります。
- 16014874、15967681、15832472 -- Mozilla Firefox 10.x を使用している場合、「グリッド・ヘッダーを固定」が設定されていると、レポートが正しく表示されません。
- 15996980 -- 「PDF のブック全体」を使用する場合、ブック設定で「リーガル」が指定されていると、ブックの目次でレター・フォーマットが使用されます。
- 15978346 -- 意思決定パッケージ・サポートが含まれる Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting アプリケーションから PDF が出力されると、ページ番号が設定され、変更できません。Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting の PDF ファイルが Financial Reporting ブックに追加された場合、ブック・ページ番号が正しくありません。
- 15966512 -- Financial Reporting ブックで、「PDF のブック全体」を使用する場合、目次で 40 文字を超えるレポート名は切り捨てられます。
- 15957851 -- Financial Reporting リリース 11.1.2.1 から Financial Reporting リリース 11.1.2.2 へのアップグレード後、PDF プレビューで Financial Reporting レポートを実行すると、配置が双方向準拠でなくなります。
- 15915103 -- Financial Reporting Studio で、フォルダまたはレポート・オブジェクトを削除するには、リポジトリの右ペインでレポートまたはオブジェクトを選択して、「編集」>「削除」を選択します。
- 15899243、15842711 -- ターゲット・フォルダがリポジトリ内の第 3 レベル以下にある場合、スナップショット・レポートの保存に失敗することがあります。
- 15874457 -- Financial Reporting レポートで展開されたメンバーを開くと、展開されたメンバーではなくレポートの最上位メンバーが表示されるため、ユーザーはレポート内の前の位置まで下にスクロールする必要があります。

- 14691385 -- Financial Reporting Studio デザイン内に Financial Reporting レポートが開いている場合、「ファイル」>「ファイル形式を指定して開く」>「Studio プレビュー」を選択して EPM Workspace から 2 番目のレポートを起動すると、2 番目のレポートが Financial Reporting Studio デザイン内に開きません。この問題を解決するには、開いている Financial Reporting Studio インスタンスから 2 番目のレポートを開くか、Financial Reporting Studio をいったん閉じてから EPM Workspace から再度起動します。
- 14682035 -- ライブ URL を EPM Workspace にインポートしてから、そのライブ URL をブックに追加すると、ブックの実行に失敗します。この問題を解決するには、HTML ファイルを EPM Workspace にインポートしてから、そのファイルを Financial Reporting ブックに追加します。
- 14680275 -- iPad で Financial Reporting を使用する場合、「プリファレンス」で「ユーザーの POV のプレビュー」が「オン」に設定されていれば、モバイル・ブラウザ設定でポップアップ・ブロックが無効になっていることを確認してください(そうでない場合、レポートにプロンプトが含まれます)。
- 14679156 -- iPad で Financial Reporting レポートを表示する場合、テキスト・ボックスとイメージの表示、および列のサイズ調整に関連する問題が断続的に発生します。この問題を解決するには、すべての Financial Reporting レポート・オブジェクトに配置プロパティを使用して、オブジェクトどうしが重ならないようにします。
- 14600458 -- Financial Reporting レポートを EPM Workspace から Smart View にエクスポートする場合、レポートのユーザー POV が保持されません。ユーザー POV は、Smart View で最後に使用されたユーザー POV にデフォルト設定されます。
- 14541797 -- 「コンテキスト」オプションを使用して注釈を検索すると失敗します。
- 14541783 -- 日本語ロケールでは、「カテゴリ」オプションを使用して注釈を検索すると失敗します。
- 14538796 -- Financial Reporting Studio で、「名前を付けて保存」を使用してレポートを保存した後、レポート・タイトル・バーに新しいレポート名が反映されません。
- 14310226 -- MemberProperty 関数を使用する Financial Reporting レポートには、結果ではなくレポート内の関数コードが表示されます。
- 14271261 -- HTML プレビューを使用して作成された Financial Reporting レポートは、Microsoft Word および Microsoft PowerPoint にエクスポートできません。「PDF のブック全体」を使用して Microsoft Word および Microsoft PowerPoint のファイルが含まれるブックを実行した場合、その出力に Microsoft Word または Microsoft PowerPoint のファイルが含まれません。
- 14204717 -- Financial Reporting レポートで行および列テンプレートが使用される場合、常に行の式が列の式よりも優先されます。
- 13971127、13116711 -- アラビア語ロケールを使用するマシンで Financial Reporting Studio を実行する場合、セッション内で作成された 2 番目のレポートが正しく表示されません。

- 13970979、13794113 -- Microsoft Internet Explorer 9 を使用する場合、「データベース接続」ダイアログの使用後に EPM Workspace が正しくリフレッシュされません。
- 13969306 -- 行および列のプロパティで上位 N 個を抑制オプションを使用する場合は、次の点に注意してください：
 - このオプションは、Essbase データ・ソースに対してのみ使用してください
 - 行軸には 1 つの次元のみを含めることができます
 - ページ軸に次元を含めることはできません
 - メンバー選択で、少なくとも N 個のメンバーを戻すデータ行が存在することを確認してください(N は「上位 N 個」で指定されているメンバー数)。
- 13930056 -- Financial Reporting レポートでテキスト・オブジェクト名を削除した後、テキスト・オブジェクトの名前を変更できません。
- 13901513 -- 英語以外のロケールでは、デフォルトのフォルダ名を使用してレポートを新しいフォルダに保存すると失敗する場合があります。
- 13853032 -- Financial Reporting Studio では、表示をリフレッシュした後、新しいフォルダが使用不可になります。
- 13851813 -- Financial Reporting Studio で作成されたフォルダにスナップショット・レポートを保存できません。この問題を解決するには、EPM Workspace でフォルダのサブフォルダを作成し、スナップショット・レポートをそのサブフォルダに保存します。
- 13813300 -- Microsoft Internet Explorer 9 でイタリア語ロケールを使用する場合、バッチのスケジュールに使用されるダイアログ・ボックス内の一部のテキストが切り捨てられます。
- 13797530 -- Financial Reporting レポートを PDF 形式でプレビューする場合、デフォルトの注釈カテゴリが、選択したロケールではなく英語で表示されます。
- 13794302 -- Microsoft Explorer 9 では、双方向言語を使用するロケールで「注釈」ペインが正しく表示されません。
- 13784268 -- Microsoft Explorer 9 では、双方向言語を使用するロケールの HTML プレビューで Financial Reporting レポートが正しく表示されません。
- 13784041 -- ヘッダー・テキストをブックに追加した場合、「PDF のブック全体」を使用してブックを表示すると、目次にヘッダー・テキストが表示されません。
- 13773244 -- Apple Macintosh プラットフォームで Mozilla Firefox を使用する場合、Financial Reporting レポートをそのプラットフォームにエクスポートした直後は、そのレポートを開くことができません。
- 13771016 -- レポート・グリッドに含まれる列数が 1,000 を超えると、レポート見出しがページの中央に表示されない場合があります。
- 13770396 -- パーセント記号(%)でフォーマットされたセルを含む Financial Reporting レポートを Financial Reporting から Microsoft Excel 2008 for the Mac にエクスポートした場合、エクスポートされたレポートのセルはすべてパーセント記号でフォーマットされます。

- 13732935 -- 双方向言語を使用するロケールでは、「バースト・リストのプレビュー」ダイアログが正しく表示されません。
- 13731692 -- Financial Reporting Studio でリポジトリからコンテンツを削除するには、リスト・ビューを表示する必要があります。ツリー・ビューからの削除はサポートされていません。
- 13654055 -- 「新規注釈」ダイアログの「説明」領域で、[Enter]キーを使用すると行間がダブルスペースになることがあります。この問題を回避するには、[Shift]を押しながら[Enter]を押して、改行を挿入します。
- 13645991 -- 注釈マネージャで検索を実行する場合、注釈検索ダイアログで特殊文字を使用していると、適切な結果が戻されないことがあります。
- 13645831、13115741 -- 双方向言語を使用するロケールでは、「メンバーの選択」ダイアログが正しく表示されません。
- 13606357 -- Financial Reporting で双方向言語ロケールを使用する場合、最大化アイコンを使用してもフォルダ・ツリー・ビュー・ペインのサイズが正しく変更されません。
- 13606330 -- Financial Reporting で、双方向ロケールを使用している場合、表示ウィンドウを最大化すると表示ウィンドウが閉じることがあります。
- 13579691 -- 双方向言語ロケールで Financial Reporting を使用する場合、「ユーザー POV」ダイアログが正しく表示されません。
- 13484691 -- 双方向言語を使用するロケールでは、Financial Reporting Studio のテキスト・オブジェクトが正しく配置されません。
- 13462921 -- Financial Reporting Studio のツールバー・アイコンは、双方向ロケールに準拠しておらず、右から左に正しく表示されません。
- 13431428 -- レポートにタブ付きのテキスト・オブジェクトが含まれている場合、そのレポートを PDF プレビューで開くと、テキスト・オブジェクトが正しく表示されません。この問題を解決するには、テキスト・オブジェクト内のタブを空白に置き換えます。
- 13397393 -- 双方向言語を使用するロケールでは、ユーザー POV のプレビューダイアログで「追加」および「削除」ボタン・アイコンが間違った向きになります。
- 13396875 -- 双方向言語を使用するロケールでは、ユーザー POV のプレビューでデータベース接続線が正しく表示されません。
- 13384773 -- Financial Reporting Studio を英語以外のロケールで使用する場合、ユーザー・プリファレンスで指定されているロケールではなくサーバーに指定されているロケールで日付が表示されます。
- 13384684 -- 午後に作成された Financial Reporting レポートでは、レポートの要約の作成タイム・スタンプが正しくありません。
- 13115978 -- 双方向言語を使用するロケールでは、レポートの「保存」ダイアログが正しく表示されません。
- 13055279 -- ブック・ドキュメントに FRExecute 関数が含まれている場合、MHTML ブック出力を正常に生成できないことがあります。
- 12981118 -- 双方向言語を使用する場合、チャートが正しく表示されないことがあります。

- 12542741 -- 「完全フォーマット」 エクスポート・オプションを使用して Financial Reporting レポートを Microsoft Excel にエクスポートすると、ロゴのサイズ調整が正しく行われな場合があります。この問題を解決するには、エクスポート前に、イメージ・エディタを使用して、ロゴをエクスポート済ファイルで必要なサイズに調整します。
- 12339716 -- ヘッダーまたはフッターでテキスト関数 LabeledCellText をページ・キーワード Current とともに使用すると、エラー:セル値を取得できませんが戻されます。
- 11895214 -- 代替変数に対して行った変更は、Financial Reporting Studio に自動的に反映されません。この問題を解決するには、Financial Reporting Studio でレポートを開き、「メンバー選択」ダイアログを使用してメンバーを選択します。
- 10318177 -- Financial Reporting のテキスト関数では、「プランニング・ユニットの注釈」パラメータの"All"が英語以外のロケールに変換されます。その結果、テキスト関数が正しく評価されません。この問題を解決するには、テキスト関数内の変換された語を英語"All"に置き換えます。たとえば、
`<<PlanningAnnotations("GridName", Row, Column, Page, Tutti, Tutti)`
を
`<<PlanningAnnotations("GridName", Row, Column, Page, All, All)`に
変更します。
- 10326386 -- Financial Reporting Studio がアラビア語のクライアントにインストールされた場合でも、Financial Reporting Studio グリッドでアラビア語の文字が正しく表示されないことがあります。この問題を解決するには、手動でフォントを変更します。
- 10279716 -- 既存のレポートを変更した後、「名前を付けて保存」を選択して変更済レポートの名前を変更すると、変更済レポートを閉じて再び開くまで、レポート名と場所が更新されません。
- 9315489 -- Financial Reporting Studio のログオン・ページでは、デフォルトの Microsoft Windows フォントを使用してログオン・ページの文字が表示されます。たとえば、日本語のオペレーティング・システムで韓国語の文字が正しく表示されるようにするには、日本語のマシンのデフォルト・システム・フォントを韓国語に変更する必要があります。

よく使用される一部のシステム・ダイアログ・ボックスはデフォルトの言語を使用して表示されます。これらは Microsoft Windows のダイアログ・ボックスであり、Financial Reporting ユーザーの言語ではなく、デフォルト言語のフォントが使用されます。

ユーザーが望む言語に適した外国語のオペレーティング・システムを使用するか、Windows のデフォルト言語を望ましい言語に設定することをお勧めします。
- 9312531 -- FRExecute 関数を含む外部の Microsoft Word ドキュメントが Financial Reporting ブックに含まれる場合、ブックの目次のページ番号設定が正しくないことがあります。この問題を解決するには、FRExecute 関数を含む Microsoft Word ドキュメントに改ページを挿入します。
- 9113605 -- ターゲット・セルに条件付きフォーマットが適用されている場合、GetCell 関数で正しいデータが取得されないことがあります。

- 8237117 -- Financial Reporting レポートを Microsoft Word または Microsoft PowerPoint にエクスポートすると、レポートのイメージ・オブジェクトが切り捨てられます。この問題を修正するには、Microsoft Internet Explorer のオプション設定でタブ・ブラウザの設定を変更します。
- 7539846 -- Financial Reporting Studio リポジトリのエラー・メッセージが適切な言語ではなく英語で表示されます。

Interactive Reporting

- 16054229 -- Microsoft Internet Explorer 9 を使用している場合、矢印キーを使用してテーブルおよびピボットをナビゲートできません。
- 16003859 -- チャート・タイプをバブル・チャートから散布図に、または散布図からバブル・チャートに変更した後、基準線および傾向線が表示されません。
- 15984768 -- Microsoft Internet Explorer 9 で Interactive Reporting Web Client を使用する場合、「メンバー選択」ダイアログに「検索」タブおよび「参照」タブの右側の枠線が表示されません。
- 15912354 -- Interactive Reporting Studio または Interactive Reporting Web Client で日本語ロケールを使用する場合、イメージおよび日本語文字が正しく表示されないことがあります。Albany フォント・ファミリーを使用すると、この問題を解決できる場合があります。ただし、Albany フォント・ファミリーを使用すると、一部の日本語文字が疑問符の文字列として表示されます。
- 15878871 -- Microsoft Internet Explorer 9 を使用している場合、Interactive Reporting Web Client で BQY ファイルを閉じると、「ファイルの保存」ダイアログ内の「ネットワーク」ボタンが機能しません。
- 14779583 -- Interactive Reporting Studio または Interactive Reporting Web Client を日本語ロケールで使用する場合、クエリー・モードで列フィルタを選択する際に小数位の値を設定すると失敗します。たとえば、フィルタで 14.57 を指定すると、14 が戻されます。
- 14650382 -- 検索で、「所有者の変更」を使用して指定した所有者ではなく以前のジョブ所有者が戻されます。
- 13682139 -- Interactive Reporting Studio を Microsoft Windows Server 2008 R2 OS で使用する場合、BQY ファイルを開くと失敗し、ローカル・エラーが戻されます。
- 13640666 -- HP-UX プラットフォームでは、「別名」または「両方」オプションを使用すると、CubeQuery の検索結果が正確になりません。
- 13613454 -- 32 ビットの Linux プラットフォームで Essbase に接続するには、`/common/raframeworkrt/11.1.2.0/bin/set_common_env.sh` で `$LD_LIBRARY_PATH` 変数に文字列 `<EPM_ORACLE_HOME>/lib` を追加します。
- 13538084 -- SmartCut URL を使用して BQY ファイルを開いた場合、「XLSX にエクスポート」を選択できません。
- 13474155 -- ピボット・セクション計算で正しい結果が戻されないことがあります。

- 13467218 -- メタデータに空白が含まれている場合、列名がマスキングされず、表示されます。
- 13247115 -- 一方に数値を含む列、もう一方に計算された値を含む列を使用して BQY ファイル・テーブルにクエリーを実行すると、識別子が無効ですというメッセージが表示される場合があります。
- 13103057、12992372 -- BQY ファイルを処理するためには、BQY ファイルに対する権限と、そのファイルにリンクされた OCE に対する権限の両方がユーザーに必要です。
- 12987598 -- HP-UX プラットフォームで、属性次元を正しく処理できません。古い OLAPQuery セクションを使用した場合や、「データベース合計のダウンロード」オプションを選択せずに行または列に属性次元を指定して「結果にダウンロード」を実行した場合、Essbase エラーが発生します。
- 12950833 -- Interactive Reporting Studio で、日付と時間の両方の値を使用してデータをフィルタ処理すると、正しい結果が返されないことがあります。
- 12938529 -- .xls 形式を指定した場合、Microsoft Excel にエクスポートされる Interactive Reporting ファイルのレポート・セクションは、タブ区切り形式でエクスポートされます。
- 12932483 -- チャートの左右両側にスケール値が使用されている場合、チャートをレポート・セクションに挿入すると、右側の値のみが表示されます。
- 12922076 -- Interactive Reporting リリース 11.1.2.x を使用する場合、System 9 より前の Interactive Reporting リリースで作成されたファイルをエクスポートすると、ファイル区切り記号に関連する問題が発生することがあります。
- 12813169 -- クエリー・セクション・テーブルでインデントが正しく表示されません。
- 12664879 -- Brio 6.6.4 から Interactive Reporting リリース 11.1.2.1 にアップグレードした後、ユーザーは Brio 6.6.4 で作成した BQY ファイルを保存できません。
- 12321878 -- ダッシュボード・セクションで Oracle Hyperion Interactive Reporting Studio スライダを使用すると、問題が発生する場合があります。
- 10382488 -- 生成されたジョブ・ファイルの時間フォーマットに秒が表示されません。
- 9836393 -- Microsoft Office 2007 および 2010 で、Interactive Reporting Web Client からセクションを*.mhtml 形式でエクスポートすると、Microsoft Excel のアラート・メッセージが表示されます。
- 9434265 -- Mozilla Firefox を使用している場合、「リポジトリに保存」または「名前を付けてリポジトリに保存」を選択すると、Insight に予期しないログオン・ダイアログが表示されます。この問題を解決するには、プロンプトが表示されたら EPM Workspace にログオンします。これは、「リポジトリに保存」または「名前を付けてリポジトリに保存」を初めて選択した場合にのみ行う必要があります。
- 9256058 -- Interactive Reporting ジョブ・サービスでジョブを受け付けられない場合があります。この問題が発生する場合、\libs\msgs\portal_en.properties にある portal_en.properties で BQDocsTimeOut プロパティ値を 1000 から 3600 に変更します。

- 9040642 -- 「名前を付けてリポジトリに保存」を選択した場合、セッションの期限切れ後に Mozilla FireFox ブラウザを使用して Insight でデータベースに接続することはできません。この問題を解決するには、ブラウザを閉じて再度開きます。
- 8439336 -- SiteMinder による認証がインストールされている場合、EPM Workspace から Microsoft Excel へのエクスポート・セクションに複数のログオン・ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 7452671 -- EPM Workspace で Mozilla Firefox 2 ブラウザを使用する場合、次の状況でウィジェットが一時的にスライダ入力に反応しなくなります:
 - ドキュメントを開いて初めてウィジェットを表示
 - 特定のフットプリント外に配置されたライブ・チャートを表示した後

この問題を解決するには、ドキュメントの別のセクションに移動して戻ります。

- 7452638 -- Mozilla Firefox では、ダッシュボード・ワークスペース内の幅が約 8 1/2 インチまたは高さが約 3 1/2 インチのフットプリントの外部にはライブ・チャートが正しく描画されません。Mozilla Firefox を使用してダッシュボードを配置する場合は、このフットプリントの制約を超えないようにダッシュボードを設計してください。
- 7342404 -- Linux/UNIX プラットフォームで、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の ODBC ドライバのロードに失敗し、クエリー処理が失敗することがあります。この問題を解決するには、Microsoft Windows プラットフォームで、データ・アクセス・サービスを実行します。
- 7317044 -- エクスポート出力ではウィジェットの透明化はサポートされていません。ダッシュボードの背景色にかかわらず、ウィジェットのフットプリントは白で表示されます。
- 7204915 -- 特定のタイプの BQY ドキュメントを処理した後は、DAS を停止できません。
- 7182583 -- 一部のウィジェット固有のスクリプト・エディタのコンテキスト依存ヘルプ・ファイルのリンクが機能しません。開こうとすると、「ファイルが見つかりません」というエラーが表示されます。これらのヘルプ・トピックにアクセスするには、「ヘルプ」メニューからヘルプ・ファイルを開き、名前で検索します。
- 7173000 -- Smart Space で BQY ファイルを開くと失敗する場合があります。これが起こる場合、次のコマンドを起動スクリプトに追加します:


```
ActiveDocument.Sections["Results"].Activate()
```

このコマンドによって、ドキュメントを開くと、結果セクションに切り替わります。
- 7117551 -- スライダ・ウィジェットの EventScript には、オブジェクト・モデル機能がありません。このスクリプト・イベントの動的作成、読取りまたは書込みは使用できません。
- 7116714 -- スライダにデータが含まれていない場合、ウィジェットとスライダの関連付けが失われます。ゲージやライブ・チャートとの関連付けを有効にするには、スライダにデータが含まれている必要があります。

- 7116439 -- 定義済数値フォーマットで、数値フォーマットが"+#,##0"または"+#,##0%"の場合、負数は"-#,##0"や"-#,##0%"ではなく"-+#,##0"または"-+#,##0%"と表示されます。カスタム数値フォーマットについては、このリリースで負数フォーマットが修正されている保証はできません。
- 7111535 -- 「グラデーション(水平)」(水平方向)および「グラデーション(垂直)」(垂直方向)のプロパティは、プロパティ・ダイアログ・ボックスに表示されていても、ライブ折れ線グラフには適用されません。
- 7036539 -- ODBC/ODBC MERANT Oracle Wire Protocol ドライバ接続では、timestamp WITH TIME ZONE データ型が文字列として認識されます。この問題を解決するには、データ型を手動で設定します。
- 6982405 -- データ・モデル接続プロパティ"username"により、NULL 値が戻されます。Oracle Hyperion Interactive Reporting Web Client は、ユーザー名がオブジェクト・モデルを使用して指定されている場合、または OCE/クエリー・セクション設定によりユーザー名を求めるプロンプトが表示される場合に、オブジェクト・モデルからユーザー名を取得します。他のすべてのシナリオでは、ユーザー名/パスワードはサーバーにより読み取られ、データベースに送信されます。セキュリティ上の理由から、ユーザー名がクライアントに送信されることはありません。
- 6614851 -- 64 ビット・カーネル・モードを使用する AIX 5.3 ML6 システムでは、Interactive Reporting が起動されません。

AIX 5.3 ML6 の問題は、System 9 の現在のバージョンおよび前にリリースされたバージョン(9.3.1 まで)のすべてと、Hyperion Performance Suite 8 のすべてのバージョンに影響します。64 ビット・カーネル・モードの ML6 には、IBM 互換性の問題があります。IBM 社では、5.3 ML6 を 5300-06 と呼んでいることもあります。

バージョン 8.5 以降および System 9 では AIX 5.3 がサポートされているため、これにはすべてのテクノロジ・レベル(TL)とメンテナンス・レベル(ML)が含まれるとみなされることがあります。この情報は、バージョン 8.5 および System 9 では 5.3 ML6 がサポートされていないことを通知するためのものです。

必要なアクション:AIX 5.3 ML6 をすでにインストールしている場合、AIX 5.3 ML7 にアップグレードする必要があります。IBM 社では、5.3 ML7 のことを 5300-07 と呼んでいることがあります。または、5.3 ML6 を使用している場合は、カーネル・モードを 32 ビットに変更できます。ただし、AIX 5.3 ML7 にアップグレードすることをお勧めします。

- 6588245 -- ピボットの累計のデータ関数を行に占める割合を求める関数に設定すると、総計に占める割合が戻されます。
- 6583475 -- 個々のメンバー値を SAPBW 代替階層からデータ・レイアウトにドラッグすると、不明なエラーが表示されます。この問題は、SAP BW データ・ソース内の OLAP クエリー・セクションに固有で、OLAP (ODBO) ドライバに SAP BW GUI 6.4 OLE DB を使用している場合のみ発生します。
- 6540929 -- BQY ファイルの Report セクションを Microsoft Excel (.xls 形式)の既存のファイルにエクスポートする場合、ターゲット・ファイルがロックされていると、エクスポートは失敗します。しかし、これが発生した場合、ユー

ザーにエラー・メッセージは表示されません。これは、結果またはテーブル・セクションでは問題がありません。

- 6540605 -- 計算結果アイテムを追加または変更するオプションが含まれるショートカット・メニューを使用可能にするには、少なくとも1つの結果列またはテーブル列が存在している必要があります。列が存在しない場合は、「アクション」メニュー・オプションの「計算結果アイテムの追加」を選択して計算結果アイテムを作成します。
- 6534426 -- あるオブジェクトが埋込みブラウザの場合、レイヤーまたはレイヤー化関数を制御できません。これは、ウィンドウ表示コントロールと非ウィンドウ表示コントロールの制限です。埋込みブラウザなどのウィンドウ表示コントロールは、形状やグラフィックなどの非ウィンドウ表示コントロールの背後に移動できません。
- 6533806 -- JavaScript の識別子または関数の命名で許可されていない特殊文字は、列名とコントロール名に使用しないでください。たとえば、空白、"|"、"\$"、"€" (ユーロ)、"\" (バックスラッシュ) (半角円記号および半角ウオン記号と同じ)は使用しないでください。コントロール名ではこのような文字の使用はサポートされておらず、使用すると EPM Workspace でドキュメントを表示できなくなることがあります。
- 6533573 -- OCE で外部結合 ODBC オプションを使用すると、SQL が正しく生成されません。これは、外部結合エスケープ構文を使用オプションが選択されている場合の、MSSQL およびネストした外部結合の既知の問題です。ネストした外部結合が必要な場合、オプションを消去してください。

Production Reporting

- 14592673 -- 「Production Reporting データベース・サーバー」設定を変更した後、Production Reporting データ・ソースに表示されたユーザー名が更新されません。
- 12820911 -- オンライン・ヘルプに含まれているサンプル・プログラムは、Production Reporting を Oracle データベースで使用した場合は正常に実行されますが、Production Reporting を ODBC で使用した場合は失敗します。
- 6940273 -- 2つの異なる DDO データ・ソースの2つのマスター・クエリーが含まれるレポートで、2つ目のマスター・クエリーを編集しようとする、Oracle Hyperion SQR Production Reporting で UAE が発生します。

Reporting and AnalysisFramework

- 16342444 -- アプリケーションを開く前に、レビュー担当者の役割が割り当てられたユーザーの権限が「なし」から「すべて」に変更される場合があります。
- 16043426 -- 「ジョブ・スケジュールの管理」で、スケジュールを表示するユーザーのみでなく、複数のユーザーが所有するスケジュールがリストされます。
- 14549398 -- Microsoft Windows ベースのホストで、Microsoft Internet Explorer を使用して標準フォームを取得できません。

- 13814094 -- 「管理」メニューからアクセスされる一部のダイアログには、「リセット」ボタンが含まれます。このボタンをクリックすると、ダイアログが空白になります。この問題を解決するには、ダイアログを閉じてから再び開きます。
- 13438034 -- 分散環境において複数のマシン間で汎用ジョブのロード・バランシングを行うことはサポートされていません。この問題を解決するには:
 1. Reporting and Analysis Framework エージェント・サービスを停止します。
 2. リポジトリ・データベースに移動し、V8_PRODUCT テーブルを開きます。
 3. 同じタイプの製品には同じ名前を割り当てます。
 たとえば、次の 2 つのサーバーに 2 つの Brio Query 製品を配置してシステムを構成したとします。一方の製品名が BrioQuery1 で、もう一方の製品名が BrioQuery2 であると、ロード・バランシングは失敗します。この 2 つのホスト間のロード・バランシングを修復するには、V8_PRODUCT テーブルの NAME フィールドで各製品に同じ名前を入力します。
 4. Reporting and Analysis Framework エージェント・サービスを起動します。
- 12823826 -- Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework のキャッシュ・プロパティ「フォルダのキャッシュ時間」のデフォルト値は 60 です。このプロパティは、フォルダをキャッシュする秒数を指定します。
- 12316913 -- 11.1.2.1 では、API メソッド `com.scribe.rm.SessionFactory.getInstance(String account, String password, String rmhostAddress)` は `com.scribe.rm.SessionFactory.getInstance(String cssToken, String gsmHosts, String gsmPorts)` に置き換わりました。どちらの関数もシグネチャは同じ (`getInstance(String, String, String)`) ですが、動作が異なります。EPM Workspace リリース 11.1.2.1 へのアップグレード後は、11.1.2.1 より前のリリースで作成された、メソッド `getInstance(String account, String password, String rmhostAddress)` を使用するアプリケーションでは、新しいメソッドが使用され、`java.lang.NumberFormatException` が戻されます。この問題を解決するには、異なるシグネチャ (`getInstance(String account, String password, String rmhostAddress, int port)` など) を持つ他のメソッドを使用します。
- 11695328 -- Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション(Oracle Fusion Performance Management リリース 11.1.2.1 の他の Java コンポーネントの場合も)に対して、仮想メモリー・フットプリントの増加が見られる場合があります。システムで使用可能なメモリーが十分でない場合、最大ヒープ設定を小さくします。最適なヒープ設定はシステム使用状況によって異なります。たとえば、ユーザー数が 100 の場合、Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションの最大ヒープを 512MB に設定すれば十分と考えられます。
- 9194960 -- 「使用可能な製品」ダイアログで Reporting and Analysis Framework が無効になっている場合は、Reporting and Analysis Framework に依存する他の製品(エクスペローラなど)を無効にします。
- 9089790 -- ジョブ・サービスの「ジョブ制限値」プロパティは、Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework の再起動後に有効になります。

- 7555645 -- EPM Workspace では特定の機能や関数の間でリソース・ファイルが共有されるため、次の言語では、管理者画面に英語の部分と翻訳された部分があります: ロシア語、トルコ語、デンマーク語およびスウェーデン語。
- 7552741 -- 韓国語では、検索結果ページにドキュメントの変更時間が a.m.または p.m.で表示されます。
- 6959959 -- Cookie ベースのセッション管理メカニズムを備えたセキュリティ・エージェントを使用している場合、Microsoft Internet Explorer から Microsoft Office ドキュメントを開くと、ログイン情報を求めるプロンプトが表示されることがあります。これは、ドキュメントを開こうとするとときに Microsoft Office が HTTP OPTIONS 要求を発行するためです。この OPTIONS 要求にはブラウザからの要求と同じセッション関連 Cookie が含まれていないため、セキュリティ・プロバイダによってログイン情報を求めるプロンプトが表示されます。Microsoft Office および Microsoft Internet Explorer でドキュメントを開く方法の詳細は、<http://support.microsoft.com/?scid=kb;en-us;838028> を参照してください。

この問題を解決するには、OPTIONS 要求の認証を使用不可にすることで、セキュリティ・プロバイダを再構成します。

検索

- 13256842 -- Microsoft Office 2007 ドキュメント(DOCX、XLSX、PPTX ファイル形式)の索引が作成されるのは、メタデータによる検索の場合のみです。リリース 11.1.2.2.00 では、これらのファイルに対するドキュメント・コンテンツによる検索は使用できません。

Smart View

- 6871481 -- Oracle Hyperion Interactive Reporting ドキュメントの CubeQuery セクションに一意でない Oracle Essbase メンバーが含まれる場合、「クエリー準備」データ・エクスポート・オプションまたは「Smart View の起動」メニュー・コマンドを使用してこれを Oracle Hyperion Smart View for Office クライアントにエクスポートできません。

Web Analysis

- 16581538、16489948 -- Oracle 11G データベースに格納されているハイブリッド・メンバーは、レポートに表示されません。
- 9897495 -- エクスポートされた Web Analysis レポートは、Microsoft PowerPoint 2010 では開きません。この問題を解決するには、エクスポートされたファイルをハード・ドライブに保存し、拡張子を .html に変更してから、Microsoft PowerPoint 2010 でファイルを開きます。
- 9320523 -- Microsoft Windows Vista または Microsoft Windows 7 クライアントのオペレーティング・システムで Windows Vista テーマまたは Microsoft Windows 7 テーマが設定されている場合、Oracle Hyperion Web Analysis Studio でショー

トカット・メニュー・アイテムが切り捨てられます。この問題を解決するには、Microsoft Windows クラシック・テーマに切り替えます。

- 9210933 -- 型付きメジャーが使用可能なアウトラインを備えた BSO キューブに対して作成されたレポートでは、データの編集に対する制限があります。次元ブラウザで日付メジャーまたはテキスト・メジャーのメンバーが選択されている場合、データを編集できません。
- 8527669 -- 地域設定が「トルコ語」に設定されている場合、ARUUtil によってユーザー・プリファレンスが作成されません。
- 6575786 - Oracle Hyperion Web Analysis レポートを 2 ページ連続してインポートすると、「リフレッシュ」および「すべてリフレッシュ」が機能しません。この問題を解決するには、複数のレポート・ページをインポートする際に、「すべてのページ」オプションを使用します。

ドキュメントの更新事項

EPM System 製品のドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新版は、OTN Web サイトの EPM System Documentation 領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)からダウンロードまたは表示できます。また、EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもできます。ここには、EPM でサポートされているプラットフォームのマトリックス、My Oracle Support やその他の情報リソースへのリンクも含まれています。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトでのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットを HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

Web アプリケーションの配置場所

Web アプリケーション配置のロケーションは変更されました。ドキュメント内のこのロケーションに対する参照は、次からすべて更新されます:

MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/domains/domainName

先:

```
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/serverName/  
logs
```

ここで、serverName は WebLogic ドメインの名前です。

Web アプリケーションの ODL ログインの場所

Web アプリケーションの ODL ログイン・ロケーションは変更されました。ドキュメント内の参照はすべて、次から更新されます:

```
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/domains/domainName
```

先:

```
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/serverName/  
logs
```

ここで、serverName は WebLogic 管理サーバーの名前です。

ファイルのかわりにストリームを使用したデータの転送

Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Administrator's Guide では、「ファイルのかわりにストリームを使用してデータを転送する」プロパティの説明が次のように更新されました:

このプロパティによって、サービスと Web アプリケーション間のデータの転送方法が変更されます。

「はい」の場合、サーブレットはファイル・システムの一時ストレージのかわりに、ストリーム入力と出力(I/O)および直接接続を使用してサービスからファイルを取得します。データは、リポジトリ・サービスとサーブレットの間の別々なソケット接続上で転送されます。

「いいえ」が選択されている場合、転送されたデータはサーブレットおよびサービス・ブローカのファイル(またはデータが 500KB 未満の場合はメモリー)に保管されます。

ストリーム I/O の方が効率がよいため、通常、このオプションを有効にします。ただし、サーブレットとサービスの間ファイアウォールが設定されている場合、サービス・ホストで使用可能なポートの使用がランダムに割り当てられるため、このオプションを無効にします。オプションを無効にすると、ファイル転送用に新規ソケット接続が作成されるかわりに、すでに使用されている Reporting and Analysis サービス・ポートを介してファイルが直接送信されます。

リポジトリ・アイテム名

ファイルやフォルダなどリポジトリ内のアイテムの名前を入力するとき、大文字/小文字および数字を使用できます。フォルダ名の先頭および最後にスペースは使用できません。ファイル名とフォルダ名には、英数字とアンダースコアのみ使用できます。

EPM Workspace

ログオン・パネル・イメージの置換え

Weblogic で Microsoft IIS を使用する場合、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide のログオン・パネル・イメージの置換えに関する項に記載された手順は失敗します。

Financial Reporting

1 台のクライアント・マシン上の複数の Financial Reporting Studio バージョン

Financial Reporting Studio リリース 11.1.2.3 以降、ユーザーは 1 台のクライアント・マシンに複数のバージョンの Financial Reporting Studio (テスト・バージョンと開発バージョンなど)をインストールできます。Financial Reporting Studio のインストール済バージョンは、Microsoft Windows の「スタート」メニュー・フォルダとショートカット、および「アンインストール」パネルに表示されます。

複数の Financial Reporting Studio バージョンのいずれかにアクセスする前に、これらのバージョンがクライアント・マシンにインストールされていることを確認してください。

注： クライアント・マシンにインストールされている各 Financial Reporting Studio バージョンは、別々のディレクトリにインストールされている必要があります。

▶ Financial Reporting Studio をインストールするには:

- 1 Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で、「ツール」>「インストール」>「Financial Reporting Studio」を選択します。
- 2 ダウンロードが完了したらブラウザをすべて終了し、Financial Reporting Studio インストーラを管理者として実行します。

注： 1 台のマシンに複数のバージョンの Financial Reporting Studio がインストールされている場合、一度に 1 つのリリースのみにアクセスできます。

▶ Financial Reporting Studio バージョンをアクセスするには:

- 1 Microsoft Windows の「スタート」メニューから、「Oracle」>「Financial Reporting Studio <version number>」>「Register Financial Reporting Studio <version number>」(version number は使用する Financial Reporting Studio リリース)を選択します。
- 2 Microsoft Windows の「スタート」メニューから、「Oracle」、「Financial Reporting Studio <version number>」フォルダ、「Financial Reporting Studio <version number>」の順に選択して、前の手順で登録した Oracle Hyperion Financial Reporting Studio バージョンを起動します。

Variance および Variance/Percent 関数の #missing および #error の結果

Oracle Hyperion Financial Reporting Studio User's Guide の「Variance / Var」および「Variance Percent / VarPer」の#missing および#error の結果に関する項の現在の記述は、次のように読み替えてください。

シナリオに応じてそれぞれの式が異なる結果になる可能性があります。関数が#missing または#error 結果を戻すときの予期される動作は次のとおりです:

- #missing 値への 1 つの参照を含む式は、#error を戻します
- #error 値への 1 つの参照を含む式は、#error を戻します
- #missing 値および#error 値への 1 つの参照を含む式は、#error を戻します
- 1 つ以上の数値(非エラーと非欠落など)への参照を含む複合式は、#error 値または#missing 値への他の参照が存在していても評価されます。

表紙ファイルの制限事項

Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide の「表紙の追加」に記載されている表紙のファイル・タイプ・リストが変更されました。現在、選択できるのは Microsoft Word ファイルおよび PDF ファイルです。

Datasource()関数および Planning データベース接続

Oracle Hyperion Financial Reporting Studio User's Guide の Datasource()関数の説明に次の記述を追加してください:

注: Oracle Hyperion Planning データベース接続で Datasource()を使用する場合、この関数はサーバー名を返しません。

Web Analysis

Excel にエクスポート・ウィザード

Oracle Hyperion Web Analysis Workspace User's Guide の Excel にエクスポート・ウィザードの手順 6 にある、「選択したビューごとに、エクスポートされたビューのプレビューが表示されます。」という記述は無視してください。この機能は現在使用できません。

同じ手順 6 の"a"の部分は、正しくは次のようになります:

"ページ次元のチェック・ボックス・アイテムのリストを表示してから、エクスポートに含める各ページ次元メンバーの横にあるボックスを選択します。"

ドキュメントのフィードバック

製品ドキュメントに対するフィードバックは、次の電子メール・アドレスに送信してください。

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトの EPM 情報開発をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。EPM System 製品は、製品のアクセシビリティ・ガイドに記載されているアクセシビリティの機能をサポートします。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の Oracle Enterprise Performance Management System ドキュメント・ライブラリ (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)にあります。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

著作権情報

Reporting and Analysis Readme, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。